



鈴木蒲郡市長



東野三河港所長



ドローンによる施設点検

中部地方整備局三河港
湾事務所は10月16日、西
浦半島西側に位置する倉
舞港において、大規模災
害による陸路寸断を想定
した防災訓練を蒲郡市と
合同で実施した。訓練で

倉舞港で海上輸送訓練

三河港灣事務所

災害時の港の有効性確認

港湾施設点検および港湾業務艇「ひおさい」による倉舞港、三河港の海上輸送訓練を行った。当日は鈴木寿明蒲郡市長や東野隆之三河港湾事務所長をはじめとする市・事務所の職員合わせて約30名が参加した。

を検証するために物資輸送や施設点検を行う。この辺りは半島地域かつ観光地の西浦温泉が隣接していることから、災害時には倉舞港が極めて重要

また東野所長は、「国交省では『命のみならず』ネットワーク形成の取組として、港や業務艇を活用して、人材・物資輸送訓練を行な

たとたにのてき気をが事務河市と三にな
述い臨訓一締を取り連携所瀬



海上輸送訓練の様子

防波堤、西防波堤、航路の順に点検を行った。ドローンの映像は蒲郡市役所及び三河港湾事務所に同時に配信され、3者が連携して施設への影響や航路の安全を確認した。

続く人員及び支援物資の海上輸送訓練では、食料港において被災者役が

進めているが、三河港湾事務所が倉舞港で災害対策訓練を行うのは今回が初めて。今後に活かせるような訓練となるよう蒲郡市と連携して取り組みたい」と挨拶した。

三河港へ海上輸送した。
業務艇は東港船つまりに
着岸し、被災者下船の手
順を確認するとともに支
援物資（段ボール15箱
の積込みを行い、倉舞港
へ折り返し輸送した。三
河港—倉舞港は往路復路
ともに約20分で航行し

支援物資の到着後は、参加者一丸となって搬出車へ積替えを行った。

20分であり、陸路が寸断された場合において最も有効な手段であることを確認した」と評するとともに、今後は災害時の倉庫港の利用について住民へ周知し、更なる防災ネットワークの形成に取り組んでいくと述べた。

三河港湾事務所は、昨年度も伊良湖港において田原市と合同で海上輸送訓練を実施する等、半島地域における自治体との協力体制の構築を進めてきており、今後も訓練計画を見直しながら定期的に実施することによって災害に備えたいと考えます。